

スポット溶接から業界の技能向上へ

スポット溶接協合理事長 竹本禎久氏

「スポット溶接における知識・技術・技能の向上とともに、国内だけでなく技能実習生も技能人材として育成していく」ことを目標とし2018年にスポット溶接協会が設立。

現状の活動としては、愛知県の工業高校(専攻科含厚・素材の異なる異種金属)で、スポット溶接の技術・技能における情報交換、交流の場などを作っておき、高等学校の生徒に教え、教員も対象とした研修交流事業を実施。また、スポット溶接作業に従事する外国人材を対象とした「技術力アップ研修」なども計画している。



設立を決めた背景としては大きく2点。1点目はスポット溶接の魅力は「即効性」と「再現性」である一方で、「誰でもできる技術」として扱われることが多いことを危惧していたため

「誰でもできる」といふことを危惧していたため、昨今、欧州などでは板厚・素材の異なる異種金属のスポット溶接を併用する新工法などが注目されており、スポット溶接の適応範囲が拡張傾向にある。まずは「誰でもできる」といふ認識を変え、適切な溶接条件出しなど、スポット溶接という「奥行きがある技能」を正確に修得した人材を増やしていく必要があるだろう。

2点目は30年間にわたり、私が愛知県の工業高校・機械科の教諭等として勤めてきた経験があるため、

土壌病、卒業生の約7割が自動車関連事業に就職していくのを見送ってきたことにある。自動車産業に就職していく卒業生の大部分が、卒業後にはスポット溶接を使ったものづくりに従事することになるため、被覆アーク溶接・ガス溶接・半自動溶接といった技能と並行して抵抗スポット溶接への理解を深めることが、就職する学生・向かい入れる企業双方のサポートになると考えている。

運営にあたり愛知県溶接協会からは加藤喜久氏を、日本金属プレス工業協会(愛知県金属プレス工業)からは久野忠博氏を理事に迎えた。

私はスポット溶接を学生に広く認識してもらい、技能として昇華させることができると思っている。それは、使用頻度に差はあっても、全国の多くの工業高校にはスポット溶接機が常備されており、実は多くの学生はスポット溶接機を目にして

しているからだ。当協会の最大の魅力は、学校へのリソースがあると考えているため、まずは国内の学生にスポット溶接の知識・技術・技能を学んでもらうとともに、大学教授などを交えてスポット溶接の可能性を知るためのセミナーを開催している。

今後の展望としては、外国人技能実習生にスポット溶接教育を施す施策を考えている。現在、技能実習生は「金属プレス加工職種・金属プレス作業」や「溶接職種・手溶接」、「溶接職種・半自動溶接」の1区分で周辺業務としてスポット溶接作業にあたっている。

国内学生に代わって、技能実習生が、身近にあるスポット溶接を、条件出しできるほどの技能として習熟すれば、各社の技術力が多岐に向上していき、スポット溶接を通じて、溶接技術、ひいては、ものづくりの力を底上げできると信じている。